府登録文化財＜文化財の種類　有形文化財（考古資料）＞

（ふりがな） 文化財の名称	さやまいけもくせいわくこう **狭山池木製枠工**
員数	１基
時代	江戸時代
所在の場所	大阪狭山市池尻中二丁目（大阪府立狭山池博物館）
所有者（保持者・保持団体）の氏名又は名称	大阪府・大阪狭山市
所有者の住所	大阪市中央区大手前二丁目・大阪狭山市狭山一丁目２３８４－１
概要	本資料は、飛鳥時代に築造された日本最古のため池である狭山池の堤内側の裾部分に設置された地すべりを防ぐための構造物で、江戸時代の土木技術を現在に伝えるものである。江戸初期の改修の際に設置されたものと考えられ、狭山池北堤の内側裾に沿って丸太杭を挿入し、横木でつないで枠組みを作ることで堤が崩れないようにしている。平成の改修（昭和 63 年～平成 14 年（1989～2002））の際に検出され、全長 28.6ｍのうち２区画分、幅 8.3ｍ、奥行き 2.5ｍ、高さ 2.5ｍについて木材と土を一体的に取り上げ、狭山池のサイトミュージアムである狭山池博物館に移築保存されている。
文化財的価値	狭山池は大阪南部、大阪狭山市の中央部に位置し、約 1400 年前の飛鳥時代に築造された現存する日本最古のかんがい用ため池である。南河内の平野を潤すことを目的に、丘陵間の谷部分を堤（北堤）により堰き止めて、ため池を築造した。 狭山池にかかわる記録は、『古事記』が初見で、その後、奈良時代の行基（ぎょうき）、鎌倉時代の重源（ちょうげん）、江戸時代の片桐且元（かたぎりかつもと）など、歴史に残る著名な人物により改修が繰り返されたことが文献資料に記録されている。近代以降もかんがい用水として池の利用は続き、大正 15 年（1926）から昭和 6 年（1931）にかけて、近代的な取配水施設を整備する改修（大正・昭和の改修）が行われた。昭和 57 年（1982）の記録的豪雨により周辺地域が甚大な被害を被ったことが契機となり、狭山池の治水機能を強化するためのダム化改修工事（平成の改修）が昭和 63 年から平成 14 年（1988～2002）実施され、現在の姿となった。この改修時に大規模な発掘調査が実施され、北堤の全容が明らかにされている。狭山池本体は、わが国古代以来の土木技術を理解する上で重要であり、現在も利用が継続している貴重なため池の事例として、平成 27 年（2015）３月 10 日に国の史跡に指定された。また発掘調査で出土した狭山池出土木樋・重源狭山池改修碑は平成 26 年（2014）８月 21 日に国の重要文化財に指定された[註1]。 狭山池木製枠工は、北堤の内側、中樋西側の裾部分に全長 28.6ｍの区間にわたって築かれた、堤が地すべりによってくずれるのを防ぐ構造物である。北堤の一部として平成５年度の調査時に見つかった。長さ３ｍから 5.3ｍの丸太材を２列に土に挿入し、前後左右を横木で連結させて枠状のものを作

	り、中に土を充填し、前方の丸太の間の土の表面に洗堀対策として水平方向に竹を敷き並べ、最後に縦に杭を打ち込んでつくられている構造となる。丸太は10組20本検出されているが、いずれも松材の丸太で樹皮はついていない。前方の丸太は鉛直方向から40度、後方の丸太は45度の傾斜で立てられ、前方の丸太と後方の丸太は上下2本の角貫材を水平に渡して連結されている。この角材は、上は断面が長方形、下は正方形をしている。枠組構築以前の盛土を掘りこんで丸太を入れ、その上に砂質土が盛られていることから、枠組の完成後に土が盛られたものと考えられる。この盛土層の上面はほぼ水平に仕上げられ、大きな礫が並べられている。 　木製枠工は、現在保存されている中樋の西側以外に、西樋の両翼で同様のものが見つかっている。水が樋へ流れ込み、堤体への負担がかかりやすい箇所で、堤の構造を保護するために施工されたと考えられる。このように狭山池木製枠工は、堤の強度を高める近世土木技術の知恵と工夫を物語る貴重な資料であるといえる。 　なお、見つかった木製枠工全長28.6mのうち2区画分、幅8.3m、奥行き2.5m、高さ2.5mについてはウレタン樹脂で梱包し、木材と土を一体として取り上げ、その後ポリエチレングリコール水溶液をシャワー方式により散布して強化をはかる保存処理を施した。現在、狭山池のサイトミュージアムとして平成13年（2001）に開館した大阪府立狭山池博物館内に移築展示・保管され、今でもなお木製枠工の工法を詳細に観察することができる。 　以上のことより、狭山池という歴史的なため池の変遷を知る上でも重要な役割を持ち、地域の歴史の象徴であり、また土木技術の歴史を知るうえで、狭山池木製枠工の歴史的価値は高く、さらに既に史跡と指定されている狭山池本体や重要文化財の狭山池出土木樋・重源狭山池改修碑と一体的なものとして価値を有しており、府登録文化財にふさわしい。
その他参考となる事項	（註１）この他に狭山池石樋蓋が大阪府指定文化財、狭山池中樋放水部の石棺群が大阪狭山市指定文化財となっている。 【参考文献】 大阪狭山市教育委員会2018『史跡狭山池保存活用計画書』 大阪府1931『狭山池改修誌』 大阪府・大阪府富田林土木事務所2004『狭山池ダム事業誌』 大阪府立狭山池博物館2010『大阪府立狭山池博物館　常設展示案内』大阪府立狭山池博物館　図録1 狭山池調査事務所1994『ふるさとの光景　狭山池写真集』 狭山池調査事務所1996『狭山池　史料編』 狭山池調査事務所1998『狭山池　埋蔵文化財編』 狭山池調査事務所1999『狭山池　論考編』 狭山池土地改良区2001『狭山池土地改良区五十年のあゆみ』

（添付資料）図面・写真その他関連資料

	写真１ 木製枠工の展示全景
	写真２ 木製枠工の断面
	写真３ 木製枠工の裏側
	写真４ 木製枠工の検出時の様子

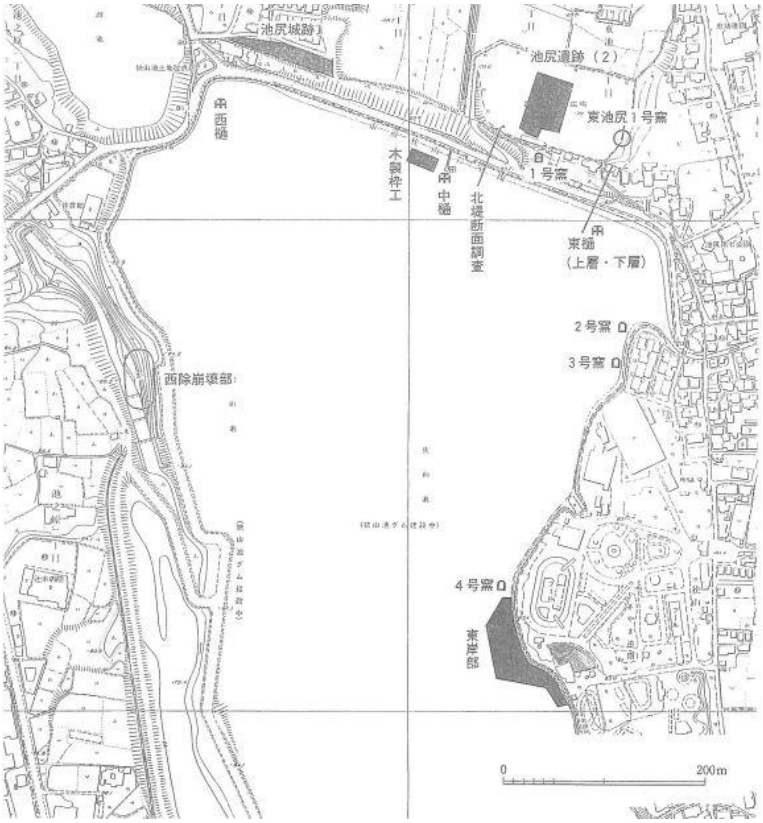

図１　狭山池全体図

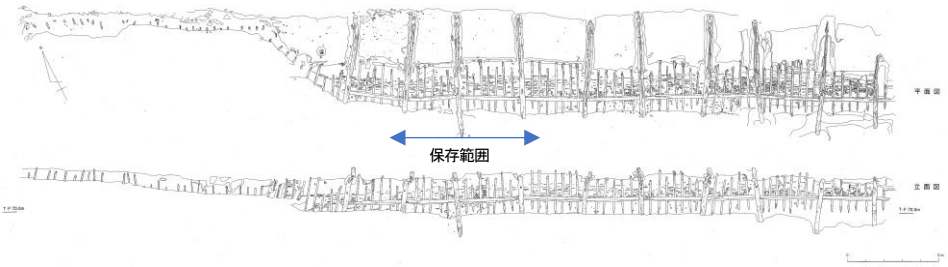

図２　木製枠工平面

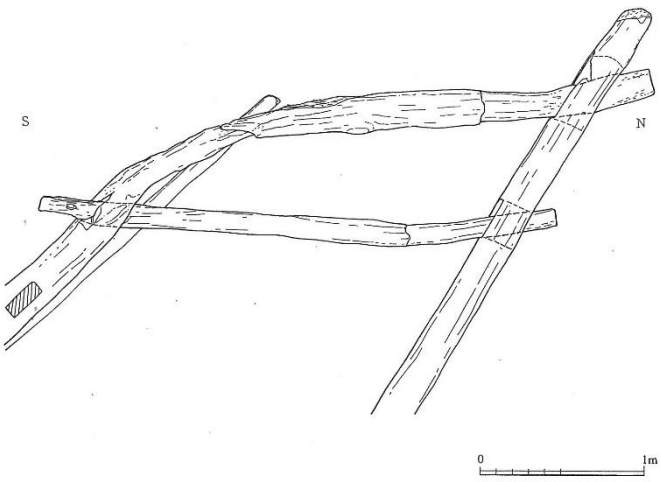

図３
木製枠工実測断面図